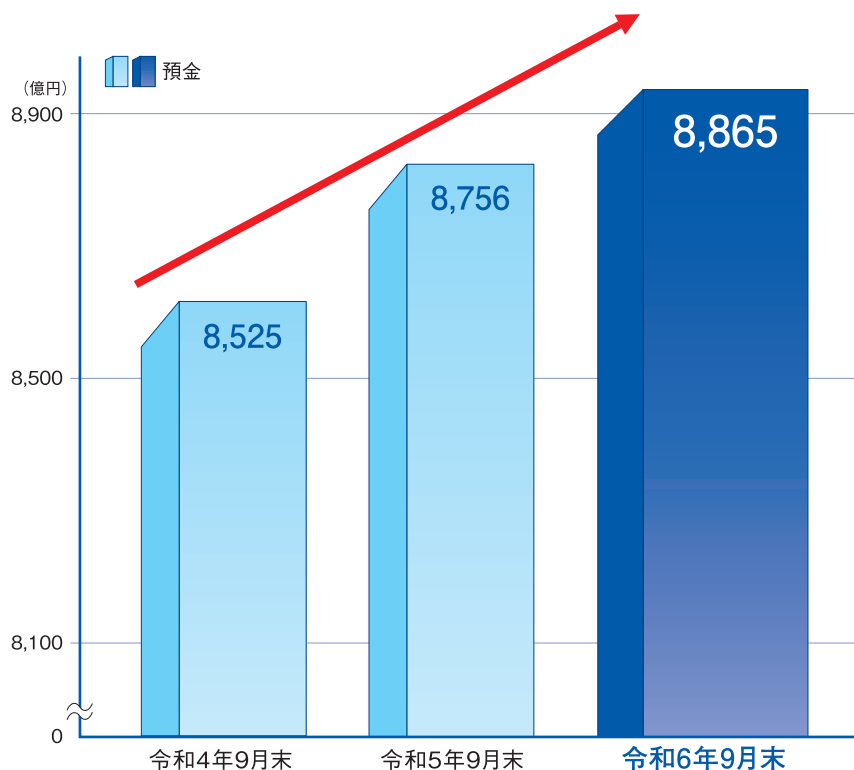


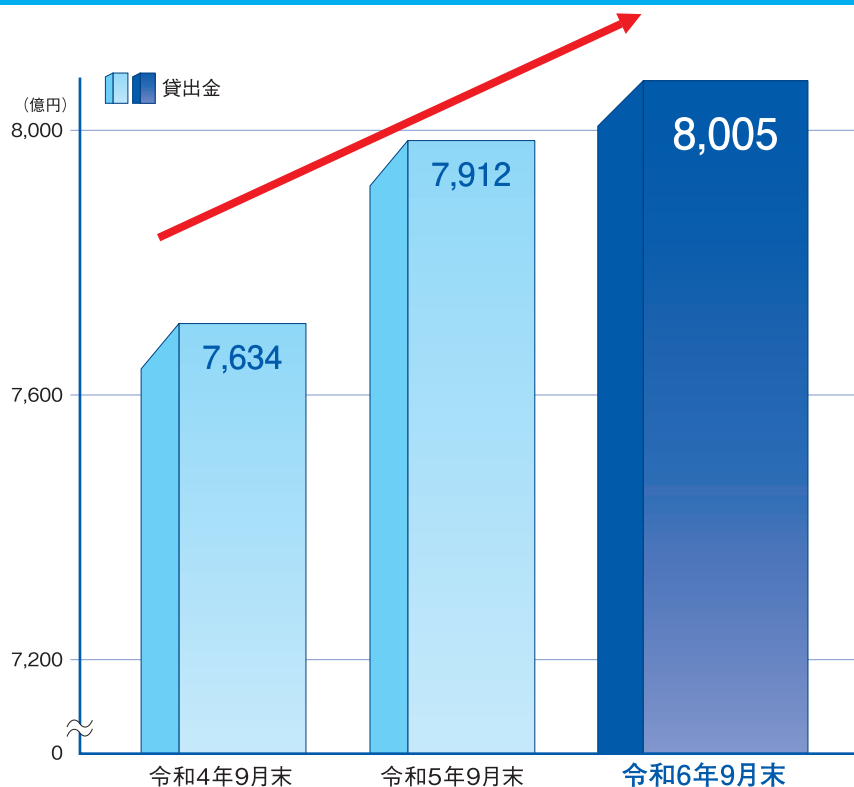
預金は8,800億円を突破

最高100万円が当たる懸賞金付き定期預金「ハッピードリーム定期」を中心に、フェイス・トゥ・フェイスとフットワークの地域に密着した営業活動を展開しました。府中支店の新築移転オープン、海田支店、己斐支店の周年運動では、僚店の職員もローラーに参加して基盤強化に取り組み、現在11月に新築移転オープンする葉研堀支店のPR活動が進行中です。その結果、預金残高は前年同月比109億円増加し8,865億円となりました。



貸出金は8,000億円を突破

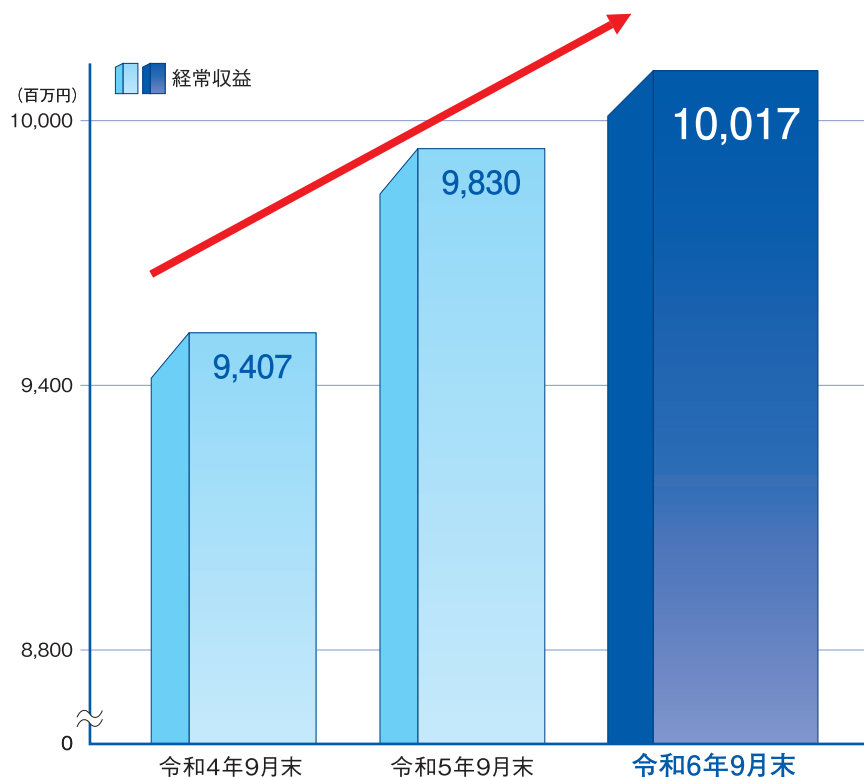
地域金融機関としてお客さまのご要望に応え、必要な資金をタイムリーにご利用いただいたことで、事業性融資が伸びました。移転オープンや周年運動のローラー活動が、新たな融資先との取引につながっています。また、個人ローンでは目的系ローンやカードローンを幅広くご利用いただきました。その結果、貸出金残高は前年同月比93億円増加し8,005億円となりました。



1 経常収益は21期連続の増収、過去最高を更新

本来業務に特化したシンプルな経営方針により、貸出金残高は8,000億円を超える伸びとなりました。その結果、貸出金利息の増収により金融機関の営業活動による収益を表す経常収益は、前年同月比1億87百万円増加し100億17百万円となり、過去最高を更新しました。

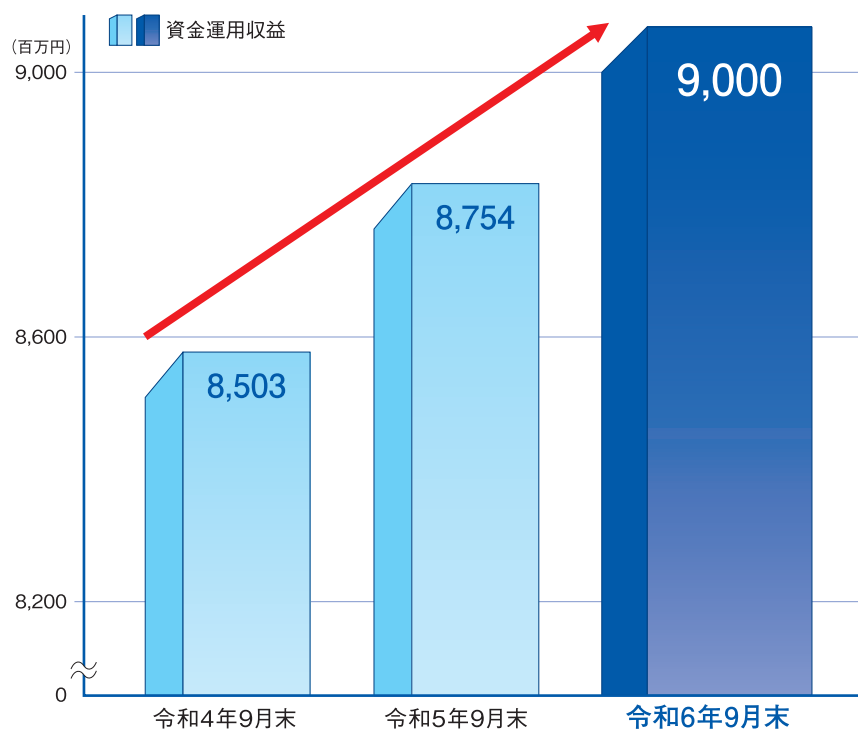
この指標は、一般企業の売上高に相当します。



1 資金運用収益は21期連続の増収

貸出金の増加による貸出金利息の増収を主因とし、資金運用収益は前年同月比2億46百万円増加し90億円となりました。資金運用収益は預金等より調達した資金の運用から得られる収益を示すものです。

資金運用収益＝
貸出金利息＋預け金利息＋
有価証券利息配当金＋
その他の受入利息

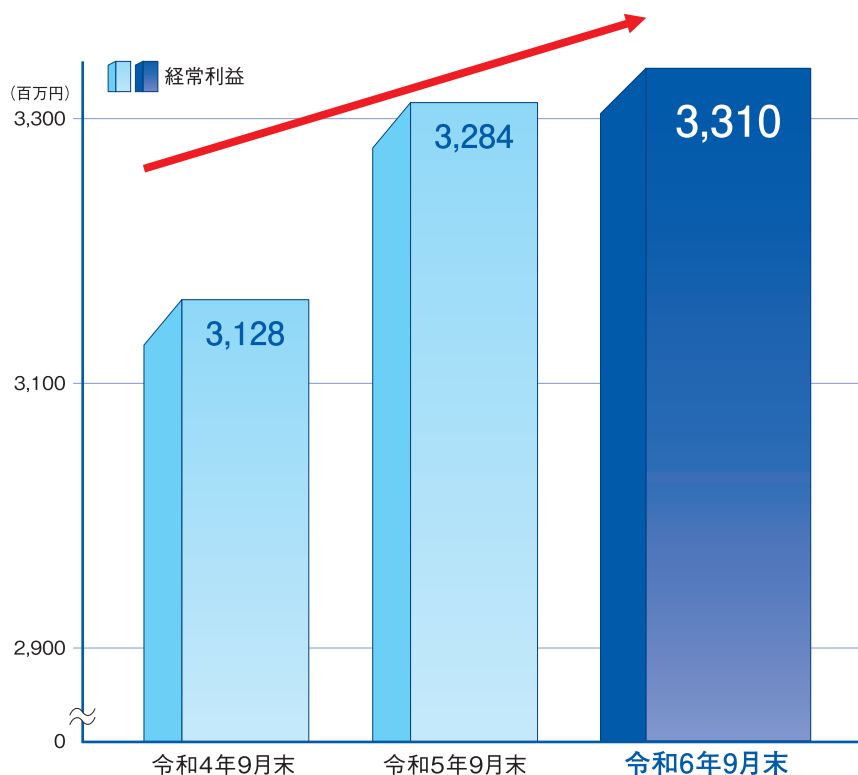


経常利益は過去最高を更新

貸出金利息を中心とした資金運用収益の増加などにより、経常利益は前年同月比26百万円増加し33億10百万円となり過去最高を更新しました。

外部要因に影響されない強固な収益基盤を構築することで収益は每期着実に増加しています。

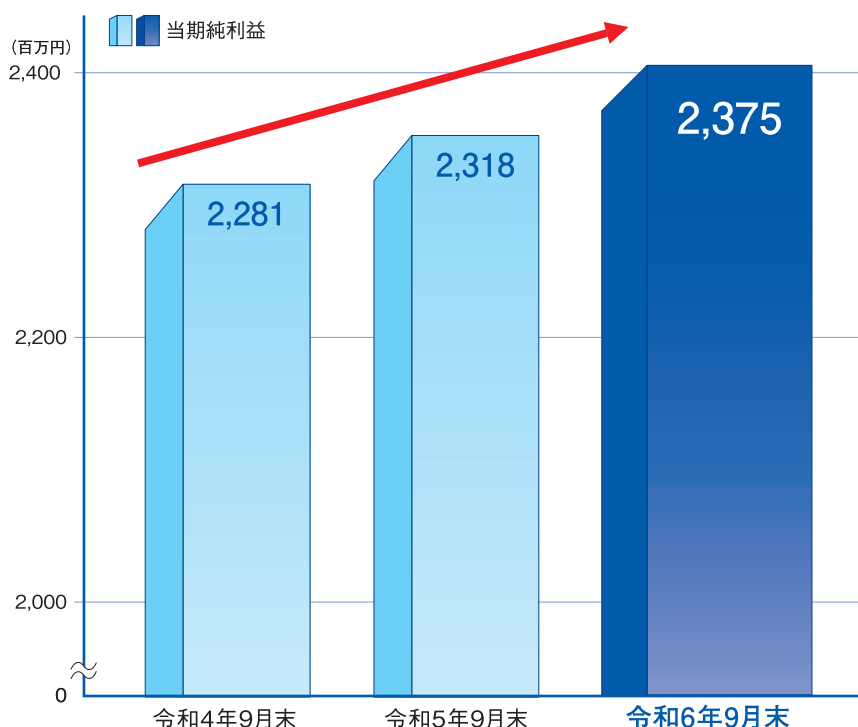
経常利益 =
経常収益 - 経常費用



当期純利益は過去最高を更新

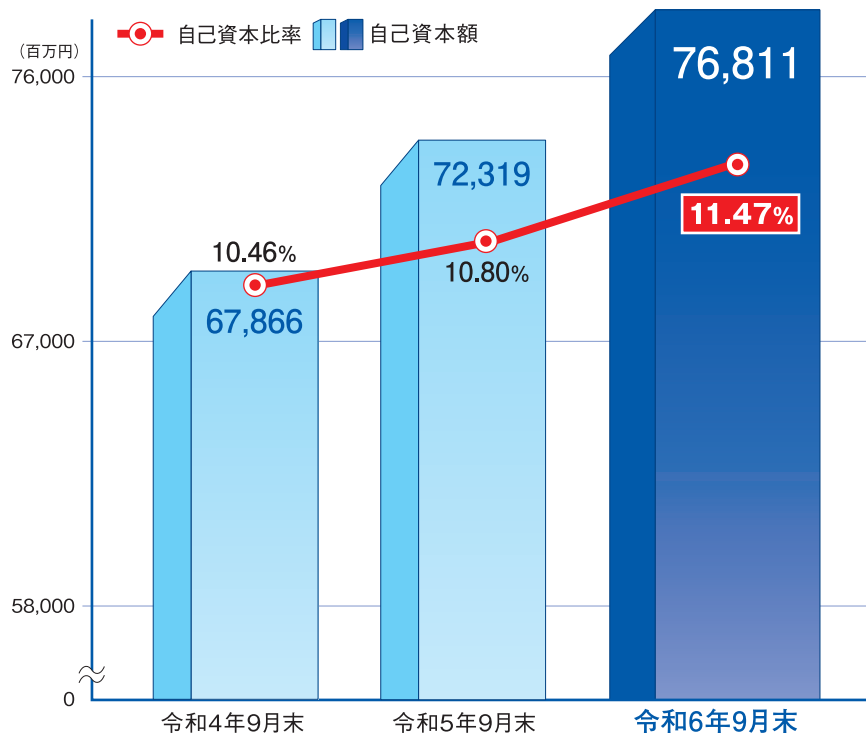
本業特化のブレない経営を継続し、お客さまの資金需要に積極的にお応えしたことで貸出金が増加し、貸出金利息が着実に増収となりました。

その結果、当期純利益は前年同月比57百万円増加し23億75百万円となり過去最高を更新しました。

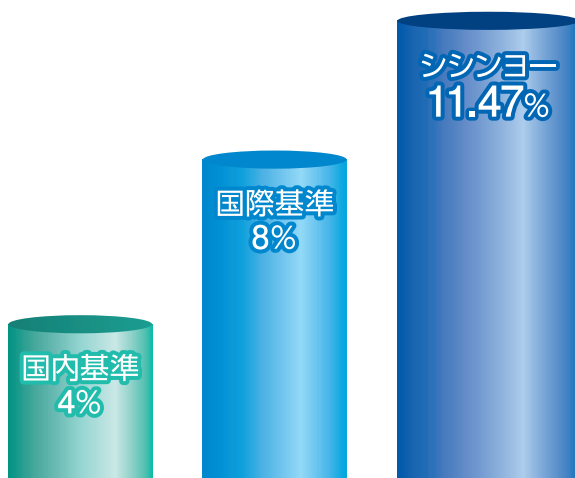


自己資本比率は高い健全性を確保

高い収益性を背景として内部留保を厚くし、安定した自己資本の充実をはかった結果、自己資本額は、前年同月比44億92百万円増加し768億11百万円となりました。
自己資本比率は11.47%と高い健全性を持続しています。



自己資本比率の見方



自己資本比率は、貸出金や有価証券等のリスク資産（リスク・アセット等）に対する出資金や利益剰余金等の自己資本の占める割合を示す比率で、金融機関の健全性・安全性を計る重要な指標です。
国内のみで業務を行う金融機関は4%以上の水準維持が求められていますが、当組合は国際統一基準である8%をも大幅に上回る十分な水準となっています。

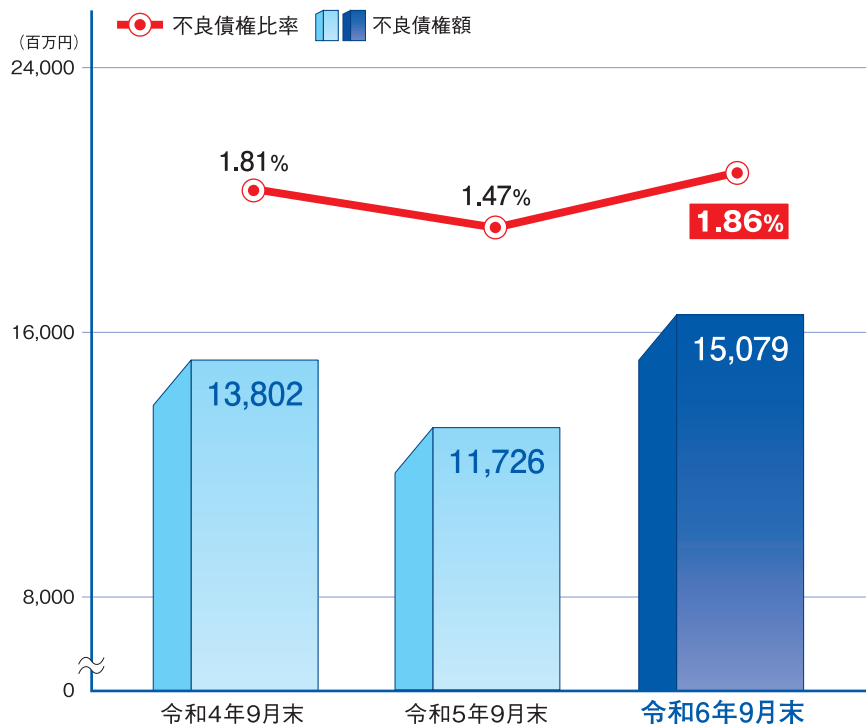
●自己資本比率の算式
$$\frac{\text{自己資本額}}{\text{リスク・アセット等}} \geq 4\%$$

不良債権比率は低水準で推移

資産の健全性を一層推し進めるため、融資延滞への迅速な対応をはかりながら不良債権のオフバランスを実施した結果、不良債権額は150億79百万円となりました。

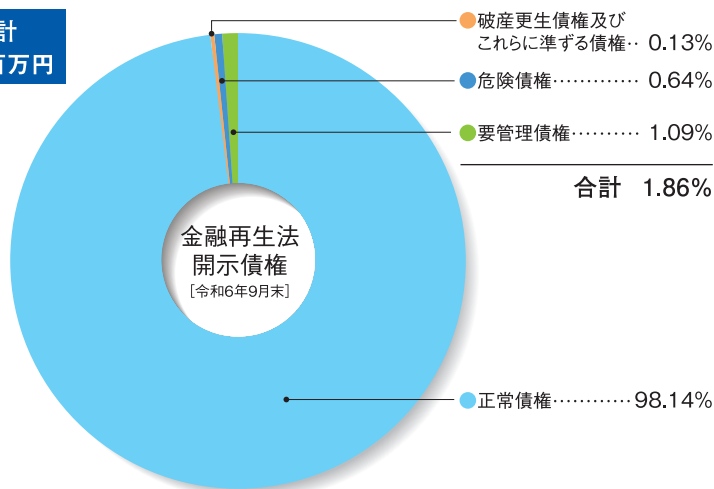
金融再生法開示債権に基づく不良債権比率は1.86%となり、全国の金融機関のなかでも低水準で推移しています。

部分直接償却は実施していません。



金融再生法開示債権構成比

開示債権合計
808,841百万円



**当組合は
部分直接償却を
実施していません。**

部分直接償却とは、資産の自己査定により回収不能または無価値と判定した担保・保証付債権等について、債権額から担保の評価額および保証等により回収が可能と認められる額を控除した残高を回収不能見込額として、債権額から直接償却することです。

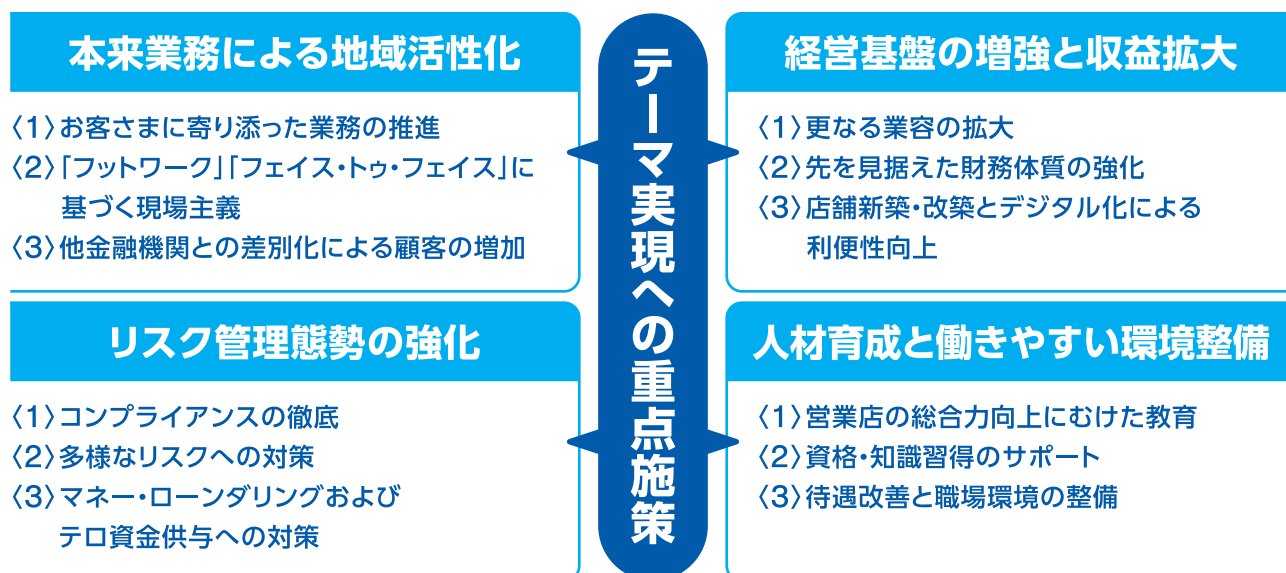
第12次中期3か年経営計画 (令和4年度～令和6年度)

当組合は、令和4年度を初年度とする、第12次中期3か年経営計画「継続を力に未来へはばたく」を進めています。2年目の実績を検証するとともに、これまで積み重ねてきた堅実・健全でブレない経営を継続し、最終年度も本計画で掲げた諸施策を着実に実行し、地域の発展とお客さまの信頼に応える存在価値の高い金融機関を目指してまいります。

◎ テーマ

「これまで培ってきた本業特化と現場主義に一層磨きをかけ、
地方創生の一助を担う金融機関となる」

◎ 具体的推進方針



◎ 主な数値目標

■ 業 容

	令和4年3月実績	令和5年3月実績	令和6年3月実績	令和7年3月目標
預 金 残 高	8,027億円	8,416億円	8,651億円	9,010億円
貸 出 金 残 高	7,043億円	7,798億円	7,946億円	8,290億円

■ 収 益

	令和4年3月実績	令和5年3月実績	令和6年3月実績	令和7年3月目標
コ ア 業 務 純 益	110億円	119億円	117億円	117億円
当 期 純 利 益	45億円	46億円	48億円	50億円
ROA(総資産利益率)	1.06%	1.15%	1.18%	1.20%
OHR(経 費 率)	32.69%	31.59%	32.30%	33.84%

■ 健全性

	令和4年3月実績	令和5年3月実績	令和6年3月実績	令和7年3月目標
自 己 資 本 比 率	10.07%	10.38%	11.09%	11.10%
不 良 債 権 比 率	1.73%	1.55%	1.95%	1.95%